２．取組を進めるに当たり困難であった事例について

Ｄ．産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

≪理工農系≫

●豊田工業大学工学研究科

「実学の積極的導入による先端的工学教育」の事例

（具体的に何を実施し、何が困難であったのか）

本学では、国際社会でリーダーとして活躍し、新しい産業を創生しうる人材育成を目指している。そのために、本取組では、従来の座学中心（受け身教育）を改め、基礎教育とのバランスを保ちつつ、プラクテス・ベースド・アクティブ・ラーニング(PBAL)科目を導入した新しいカリキュラムを構築し、その大きな柱として本学大学院で初めて「修士学外実習」を導入した。計画段階では「必修」の位置付けとしたが、学内での議論・調整の結果、必修とすることは困難であると判断し、最終的には「選択」科目とした。

（苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか）

・国内外の実習派遣先開拓が全学生分確保できない

・派遣先と学生のレベルとのマッチング（特に海外実習）により、希望学生すべてを派遣することは困難であり、必修科目にはできなくなった。

（どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか）

・国内外の実習派遣先開拓は、指導教員の他、本取組委員会が積極的に関与した。

・派遣先と学生のレベルとのマッチングを考慮すると派遣できる学生に制限があることが判明した。

・海外派遣学生については、英語学習のフォローアップを行うことが必要（現在はネイティブによる指導を事前に行うようにしている）